



ゆり組だより

6月号

令和3年6月18日

こどり保育園

担当 熊澤



色とりどりの紫陽花に梅雨の訪れを感じます。

ある朝の分園での出来事です。バスを待ち並んでいると、一人の男の子が、「見て見て!」と、とても興奮した様子で保育者に手の平を差し出しました。見るとそこには、一匹のたんご虫と、白い小さな粒でした。目をこらして見ると、白い粒はたんご虫の赤ちんでした。初めて目にする子もフク、その場にいた大人も子どもも興味津々でした。「もっと見たい。」
 「保育園で飼おうよ。」「皆でお世話するから。」とたくさん声があがりました。その気持ちに応えたいと思い調べましたが、自然の中で育つのが一番良いという答えでした。そのことを話すと、「そか、分かったよ。」と予想外のあっさりとした返答でした。子ども達もどうしたら良いのかを自分で考え、たんご虫のことを一番に思ったのだと感じました。命の尊さに触れる、大切な時間でした。

ところで、先日行なった製作でしゃぼん玉パートということをしました。しゃぼん液に絵の具を溶かし、画用紙に向かって膨らまし、はじかせます。思ったとろくにいかないのがしゃぼん玉。友だちの画用紙に自分が吹いたものが届き、模様が付くと、「ああしゃぼん玉のプレゼントだ。ありがとう。」と嬉しそうでした。とても楽しかったのでまた機会があったら、大きな紙に皆で色を付けるのも面白そうだな...と思いました。

これからも、さまざまな経験が出来るようにしていきたいです。

